

単元まるごと計画「日本のすてきポスターで
Welcome to Japan!」（全8時間）

単元のゴール（can-do）：日本を知らない人に向けて、季節ごとの行事・その季節にできること・自分の感想を Welcome to Japan. / We have ... in / You can / It's を使い、グループのポスターで紹介する。

評価規準 3観点（国研参考資料の文型で作成）

知識・技能	Welcome to Japan. / We have ... in / You can / It's などの表現について理解しているとともに、日本の季節や行事、その季節にできることについて伝え合う技能を身に付けている。
思考・判断・表現	日本に興味をもってもらうために、日本の季節や行事、できることについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	日本に興味をもってもらうために、日本の季節や行事、できることについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとしている。

◎＝記録に残す評価（方法つき）。◎のない時間は指導に徹し、記録に残す評価は行わない。

単元の流れ 全8時間

時	紙面	主な活動	帯（毎時間のはじめ）	評価
1	SO	先生・ALTの「日本のすてき」を聞く（Welcome to Japan. / We have ... に 出会う）＋「だれに伝えるか」を決めて 掲示	歌／チャンツ	記録なし
2	SO	季節・行事の言い方練習（絵カード）＋ 季節めぐりすごろく（活動1）	Small Talk①話題1（先生の好 きな季節）	記録なし
3	YT	You can の言い方＋感想 It's とリ アクション練習	歌／チャンツ	記録なし
4	YT	3点セットを口で組み立てる（季節→でき ること→感想）＋書きWS①	Small Talk①話題2（外国の友 だちに教えたい日本）	記録なし
5	EC	グループでポスターの台本づくり・役わ り決め（活動2）	歌／チャンツ	◎ 行動観察（知 技）
6	EC	ポスター発表リハーサル①（グループ交 換）→中間指導	歌／キーフレーズ暗唱	◎ 行動観察（思 判表）
7	OH	世界の国のすてきを聞く（教科書OH）＋ ポスター発表本番→おわりに「行ってみ たくなったポスター」発表	歌／チャンツ	記録なし
8	OH	パフォーマンステスト（発表＋やり取 り）＋単元の振り返り	なし——テストに使い切る	◎ テスト（知 技・思判表）＋ 振り返りカード （態度）



45分の基本形と運用メモ

45分の基本形 毎時間この流れ（先生は上から順に使うだけ）

分	やること	使う教材
0-5	あいさつ・歌	—（教科書付属音源）
5-10	Small Talk／チャンツ	Small Talk台本①
10-15	語彙の練習	絵カード
15-17	めあての確認	—（黒板に型を掲示）
17-37	主活動 ※途中で中間指導	活動シート1～2
37-45	振り返り（1行）・あいさつ	振り返りカード（汎用）

時間が足りないときは、ここを削る（優先順）

- 1. 季節めぐりすごろく（第2時）は1周でやめる（2周目は朝の時間や雨の日の予備へ回せる）
- 2. ポスターの色ぬり・かざりは英語の時間から外す（宿題か図工へ。英語の時間の本丸は文を決めること）
- 3. 発表は1グループ1分厳守（延ばすと第7時の本番が第8時のテストに食い込む）
- 4. OHの世界の国のすてきは「1つ言えたらOK」に圧縮してよい

準備物 印刷するだけ（準備5分）

- ☐ 絵カード（提示用1部＋班数分）
- ☐ 活動シート1（すごろくの盤・班に1枚＋予備）／活動シート2（人数分）
- ☐ サイコロ（班に1つ。1～6を書いた紙を引く形で代用できる）
- ☐ 書きワークシート①（人数分）
- ☐ ポスター用の紙（四つ切り画用紙・グループ数分）と太いペン
- ☐ パフォーマンステスト式（先生用・第8時）
- ☐ 振り返りカード（汎用の型・単元名だけ書き換え）

配慮が必要な子へ

- ・紹介するのは「行ったことがある場所」ではなく「日本にあるもの」。第1時にこれを宣言すると、旅行の経験や費用が話題にならない（この単元最大の配慮点）
- ・ポスターの絵は絵カードを写してよい。絵が苦手な子は文の担当、書くのが苦手な子は絵や指し示しの担当と、グループ内で役割りを選べるようにする
- ・発表は1人1文でよい。言えない子はポスターを指しながらキーワード1語＋ジェスチャーでOK（伝われば◎）
- ・着物・お祭り・お正月などは「日本にはこういうものがある」の紹介にとどめ、「持っているか／行ったことがあるか」は聞かない

先生へ（この単元の勘どころ）

- ・We have はU5「町・道案内」で使った形。ここでは町のかわりに日本、うしろにin＋季節を足すだけ——「新しいのはinだけ」と最初に言い切ると、子どもの構えがほどける
- ・この単元の核は相手意識。「だれに伝えるか」（ALT・姉妹校の子・オンライン交流の相手など）を第1時で決めて教室に貼る。相手の顔が見えるほど言葉が出る
- ・3点セット（季節と行事→できること→感想）の順を黒板に固定する。順番が決まっているだけで、5年生は英語で3文話せるようになる
- ・We have ... のhaveは「持っている」と訳さない。「日本には～があるよ」の合図の音として、かたまりのまま扱う（文法説明をした瞬間に話せなくなる）